

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺

長春山 本英寺

## 『よろこび』五十七（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

人間は、どういう状況で幸福を感じるのだろうか。ほしかったものが得られたとき、何か目標が達成された時などであるが、それは、自分と他の人々がそれによって向上したり、より調和された姿になった時であろう。ここで私たちは幸福感というものが何か達成するためのモチベーション（動機）となっていて、このことに気がつく。人間の調和に向かった進歩と向上への欲求は、生命の根源的なものである。これは東京の高層ビルから巨大な都市の相を見るとき、これは東京の高層ビルから巨大な都市は創造的な生き物なのである（うか）。

この創造へのモチベーションは人間性の本質に根ざしたものであるが、それは人間が宇宙を顕現（創造した）本仏の分霊であるからである。人間は、自分と宇宙を創造的に進化させるために存在し、その創造の中に喜び幸福観を感じるのである。

南無妙法蓮華経は、創造的宇宙意識である九識に帰る祈りであり、南無妙法蓮華経は創造的進化を行う生命の願望であり躍動である。宇宙の創造意識に南無妙法蓮華経と帰る、南無妙法蓮華経と宇宙創造意識に随って生きよう。そこに大きな幸福感がある。



## みおしえ

「心は、捉え難く、軽々とざわめき、欲するがままにおもむく。その心をおさめることは善いことである。心をおさめたならば、安樂をもたらず。」

（法句經二十五中村元訳）

心は軽く動きざわめき、欲望のままにその目的に向かう。その心をおさめ、正道や瞑想に精進すると悟りの境地、意識解脫に迷いの世界に生かち肉體煩惱、意識から解脫して迷いの世界に生まれ変わらなくなる。心を制御して、道に精進するならば、涅槃という安樂の境地に入る。これが出来れば、涅槃の境地に入る。これが出来れば、涅槃の境地に入る。これが出来れば、涅槃の境地に入る。

肉体煩惱にひかれ輪廻転生するといつまでも苦しみの生存がつづく、心を制御し解脫の境地、涅槃寂靜の境地に入ることが大切である。

## 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え  
心を制御して瞑想しよう

